

技師

最新の画像撮影システムを導入しました

中央放射線部長 安藤 嘉宏

昨今、「放射線被ばく」に関する問題がクローズアップされています。放射線科でも「被ばくの最適化」、つまり最小限の被ばく線量で十分な医療情報を手に入れよう、という原則のもと、常に被ばく低減を意識しながら撮影業務を行っています。

去年の12月から2カ月にわたり新しい撮影システム導入のため一般撮影室3室の工事を順次行いました。皆様にはご迷惑をおかけしましたが、これによってこれまで使ってきた古いCRシステムから富士フィルム製の最新のFPD(フラットパネルディテクター)という撮影装置に置き換わり、患者さんにとっても様々なメリットが生まれました。

FPDとは、X線を直接デジタルデータとして取得できる装置です。これまでのCRシステムではいったんフィルム状のプレートにX線で影を写し、それをデジタルデータとして取り出していたので読取作業が必要でしたが、FPD

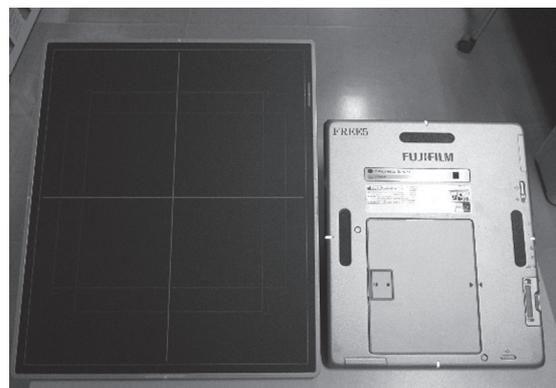
では撮影から瞬時に画像データが得られるようになりました。例えるならフィルムカメラからデジタルカメラに移行したと考えるとわかりやすいと思います。

FPDに更新したことで、画質が非常にきれいになり、また読取作業が不要な分、患者さんの待ち時間の短縮が出来ました。そして一番のメリットは、撮影部位にもよりますが、必要なX線量が今までの装置に比べおよそ1/2～1/3程度まで低減できたことです。これらにより一般撮影部門では以前よりも待ち時間の短縮や高画質な画像の提供、そしてなによりも被ばくの低減という点で、より良い医療を患者さんに提供できるようになりました。

なお、勤労者医療を掲げる当院では、MRIの予約検査を火曜日、木曜日の17時以降と土曜日、日曜日にも実施しております、平日や病院の診療時間内に来院が難しい患者さんは是非お問合せください。



新しくなった撮影室



最新のFPD